

徳島大学・美波町地域づくりセンター

事業のポイント

■人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

事業の概要

1. 事業の目的

当センターは、2013年7月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所3階に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

2. 事業の取組状況

①研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。平成28年度は、第53回土木計画学研究会発表会（春大会）および第37回地域安全学会研究発表会（春季）で研究発表を行った他、『日本災害復興学会誌 復興通巻第16号』および『新都市 第70巻第11号』の原稿寄稿も行った。また、平成28年4月14日、16日に発生した熊本地震では、徳島大学熊本地震調査団の一員として現地調査に参加し、「徳島大学熊本地震調査速報会」（5月6日）で屋外避難生活について発表を行った。

②持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。平成28年度は、当センター主催で、「徳島大学熊本地震復興支援講演会」（8月28日）、「ごっつい由岐の未来づくりプロジェクト講演会」（8月29日）、「平成28年度徳島大学タウンミーティング」（12月19日）、「平成28年度徳島大学地域シンポジウム（3月11日～12日）」を開催した。また、美波町、美波町自主防災会連合会に協力して、「美波町昭和南海地震70周年シンポジウム」（11月5日）や「宮川大輔・花子のお笑い防災シンポジウム」（1月24日）、「美波町自主防災会連合会防災講演会（3月3日）」を開催した。

③視察研修および学生インターンシップの対応

当センターおよび美波町の先進的な取組を視察研修に来る国内外の防災・まちづくり関係者（大学研究者、自治体職員、自主防災会等）の対応を行っている。平成28年度は、美波町補助金事業で『美波町津波防災視察研修プログラムの開発』を行い、徳島県昭和南海地震70年事業「津波減災フィールドワーク～先人の教訓・叡智に学ぶ～」(10月2日)や平成28年度JICA研修「コミュニティ防災(A)」(11月10日～11日)等の受入を行った。その他、学

事業代表者・連絡先

山中 英生(地域創生センター副センター長)
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字西地50-1
(美波町役場由岐支所3階)
tel / fax: 0884-70-1274
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

生インターンシップの受入れも行っており、平成28年度は徳島県内大学生3名の受入も行った。

④美波町の自主防災活動の支援

美波町自主防災会連合会および由岐湾内3地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。平成28年度は、美波町自主防災会連合会の熊本地震西原村災害ボランティア活動（7月1日）や美波町避難所開設・運営マニュアルの作成および訓練等の支援を行った。また、由岐湾内3地区自主防災会連合会のT型集落点検ワークショップ（11月25日～27日）や事前復興まちづくり計画素案の作成および住民意見交換会等の支援を行った。

⑤地域防災についての“しゃべり場”の支援

美波町西の地防災きずな会によるコミュニティカフェ「まったりカフェみなみ」の運営支援を徳島大学の学生ボランティアと行っている。カフェは、平常時から災害時要援護者や住民の絆を深める交流の場だけでなく、平成28年度は美波町津波防災視察研修の受入等の際に、町内外者の交流の場としても活用した。

⑥小中学校での防災教育の支援

美波町内外の小中学校で防災教育の支援を行っている。美波町補助金事業で『美波町津波防災視察研修プログラムの開発』を行い、美波町防災教育推進会議研究会および美波町立由岐小学校防災教育校内研究会等の講師を務めた。



昭和南海地震70年事業「津波減災フィールドワーク」



美波町熊本地震西原村災害ボランティア活動



平成28年度JICA研修「コミュニティ防災(A)」



T型集落点検ワークショップ

「にしあわ学舎」地域再生推進事業

事業のポイント

■県下24市町村との連携協定締結を契機に、今まで組織的な取り組みを行ってこなかった県西部(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)にサテライトオフィスを設置し、地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

事業の概要

1. 事業の目的

徳島大学にしあわ学舎では、西部2市2町、徳島県、徳島大学教職員で構成する「徳島県西部地区地域づくり連絡協議会議」を設置し、サテライトが行う各種事業の計画・立案、その他連絡・調整等を行うこととしており、地域を支える人材を育成する「地域育成プログラム」と地域課題の解決・改善に向けて検討する「課題解決プログラム」からなる「地域創生支援プロジェクト」を展開する。

2. 事業の取組状況

①市民講座「にしあわ学び郷」の開催

地方創生支援プロジェクトに係るフィールドワーク実施の成果をもとにして、市民講座「にしあわ学びの郷」を昨年に引き続き開催した。「第4回生活支援と地域づくり」は、三好市井川農産物加工開発センターにて、平成28年4月13日(水)に開催し、22名の参加があった。

本市民講座では、県西部地域における過疎化・高齢化の進行と高齢者世帯・一人暮らし世帯の増加により、生活する上での医療機関への通院・買い物等の移動手段の確保、災害時の安否確認等の課題を踏まえ、生活支援と地域づくりについて議論した。

②公開講座の開催

「健康づくり」をテーマに、大学開放実践センターが行っている公開講座のカリキュラムを活かして、地域ニーズに合致した公開講座を開催した。

「100mから始める健康マラソン」は美馬市うだつアリーナにて平成29年2月3日(金)、2月10日(金)の2日間開催し、28名の参加があった。

「健康づくりのためのウォーキング&ノルディックウォーキング」は三好市三野体育館にて平成29年2月15日(水)に開催し、40名の参加があった。

③人材育成講座

徳島大学にしあわ学舎「世界とつながるまちづくり事業—にしあわ英語旅—」を開催した。「世界とつながるまちづくり」プログラムとして、「外国人観光客おもてなしプログラム開発」及び「あなたの街を英語で知ろう」をテーマに、アメリカで最も住みたい町オレゴン州ポートランド

事業代表者・連絡先

吉田 敦也(地域創生センター・センター長)
〒779-4801 徳島県三好市井川町辻73(三好市井川総合支所3階)
tel / fax: 0883-78-2127
e-mail: nishiawa@tokushima-u.ac.jp

からケイト・ワシントンさん、マット・ビポーさんをゲストに迎え、①住民のための学習プログラム(特に英語)、②情報発信、③モデルコースづくり、④公共の場づくりの4つのテーマに分けてワークショップを開催した。参加者はゲストと英語で積極的に交流ができ、地域でのおもてなし、観光の課題が見えてきた。また、参加者は本プログラムの継続を望んでおり、「にしあわ英語旅」の自主グループも誕生している。

第1回

平成28年7月11日(月)・7月12日(火)
道の駅大歩危及び祖谷かずら橋周辺 参加者30名

第2回

平成28年9月21日(水)・9月22日(木)
道の駅大歩危及び雲辺寺周辺 参加者23名

第3回

平成29年3月中旬開催予定



100mから始める健康マラソン



健康づくりのためのウォーキング&ノルディックウォーキング



世界とつながるまちづくり事業—にしあわ英語旅—

神山学舎活性化事業

事業のポイント

- 若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。
- フューチャーセンター機能を持った未来の学校として神山町の神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス内に「神山学舎」を設置。

事業代表者・連絡先

吉田 敦也(地域創生センター・センター長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880
e-mail: yoshida@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指し、フューチャーセンター機能を持った未来の学校として、地域と一体となった事業を実施する。

2. 事業の取組状況

神山学舎では、「未来のイノベーター育成」を柱に、米国オレゴン州ポートランドとの連携と神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス内に設置された強みを活かして、地元の住民や事業者、NPO、町役場等との共創事業を展開している。

主な事業は、①「往来学習プログラム開発プロジェクト」、②「タイニーハウスプロジェクト」、③「地域を基礎とした教育/学習開発」である。

● 往来学習プログラム開発プロジェクト

地域住民の視野拡大とアクションづくり、スチューデントアンバサダー養成等を目的として、ポートランドからのゲストスピーカーから「市民参加のまちづくり」と「文化や産業の創造活動」に関する話題提供や実演を行うポートランドトーク、また、その共有から地域創生のアクションプランをデザインするワークショップを実施した。

● タイニーハウスプロジェクト

神山町の地勢、資源、環境を活かしたホテル(徳大ハウス)の建築を目標に、地域の中で「ものづくり」してもらうワークショップを実施した。徳島大学生を中心に、共同作業のデザイン、竹林/山林での資材の切出し体験、地産地消のメニュー開発やクッキングなど、地域や近隣の住民などが参加して実践した。

● 地域を基礎とした教育/学習(コミュニティベースドラーニング(CBL/Community-Based Learning)ならびにサービスラーニング(Service Learning))

ポートランド州立大学で実施されている世界的に注目を集めている教養教育プログラムをモデルとして実施し、地域のユニークさを活かした学びコンテンツの開発、また、開発したコンテンツを展開の仕組みとして、その場所ではできない学校のデザインに取り組んだ。

(主な事業)

■ 神山に遊んでタイニーハウスをつくろう!

開催日時:平成 28 年 7 月 9 日(土) 8:30 ~ 22:00

平成 28 年 7 月 10 日(日) 5:00 分 ~ 16:00

場所:神山学舎 参加者数:計 46 人

■ 第2回神山に遊んでタイニーハウスをつくろう!

開催日時:平成 28 年 9 月 26 日(月) 10:00 ~ 16:00

場所:神山学舎 参加者数:15 人

■ まちづくりリレートーク もう一度来たい街

ここに住みたい町

開催日時:平成 28 年 12 月 17 日(土) 18:00 ~ 20:00

場所:神山学舎 参加者数:18 人

■ 宿と食から考える

「もう一度来たい ここに住みたい まちづくり」

開催日時:平成 28 年 12 月 18 日(日) 10:00 ~ 15:00

場所:徳島大学フューチャーセンター『A.BA (アバ)』

参加者数:12 人

3. 事業実施による成果と今後の課題

神山学舎は、中学生や高校生を含めた若者、次世代へ続く持続し、成長する徳島づくりにおける未来設計プラットフォームとして実質的な結果をテンポ良くもたらしている。そうした成果を社会イノベーションに結びつけ、それに関わった若者が成長し、次世代を担う人材となるよう、コミュニティホテル「徳大ハウス」の建築と運用に関する社会実験や、イノベーター育成のための「地域を基礎とした教育/学習」(CBL)を単位化し、ポートランド州立大学との連携プログラムとして公式に展開していくためのアクションを起していく予定である。

